

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価（3月25日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の知的好奇心を喚起し、思考力・判断力・表現力を高め、希望進路を実現する教育課程編成や組織的な授業研究・実践に取り組む。 ②学校行事や生徒会活動等における生徒の主体的な取組の促進を図る。	①進路実現につながるカリキュラムの実施に取り組むとともに、1人1台PCの活用推進の方法について検討する。 ②学校行事を通して、主体的に考え行動する力と、コミュニケーション能力を育む。	①新カリキュラムの科目について、適切な実施ができていないか検証する。 1人1台端末の活用について、活用率70%を目指し、組織的な授業改善を通じて推進する。 ②学業等との両立がしやすい環境を作り、生徒が主体的に行事に取り組む力を育む。	①新カリキュラムの現状について、学習指導要領改訂の趣旨に則しているか。 1人1台端末の活用率が70%を達成したか。（授業評価アンケート） ②学校行事等で主体的に計画・実行し問題解決をする生徒の割合が増加したか。	①新カリキュラムの科目について、学習指導要領改訂の趣旨に則しているか。 1人1台端末の活用率が85%前後となった。 ②学業と行事等を両立できる環境を整え、生徒が主体的に行事に取り組む力を育むことができた。	①新カリキュラムにおける適切な評価の在り方について、教科を越えて検討する。 端末を使うだけでなく、よりよい学習活動につなげる活用法について検討する。 ②より生徒主体で行事等を計画・実行し問題解決できる生徒を育む。	①1人1台端末の活用割合が85%は高いが、ICTツールを活用した学習の保証が進路実現に結びついていくので、精査していくことができると良い。 ②学校行事について、生徒の主体性を重視し、デジタル化が進んでいるので評価できる。	①新カリキュラムの実現に向けた実践し、適切な教育課程の実施ができたが、授業展開や端末の友好的な活用方法の検討に課題が残った。 ②コロナ後に学校行事が正常に行われていく中、生徒の主体的な企画・運営を実現できた。	①校内研修の実施や職員間および生徒と職員の間で意見を交わす機会を設けるなど、一層の組織的な授業改善に努める。 ②より生徒の主体性を伸ばし、企画・運営のすべての面で中心となるよう支援する。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	①多様な生徒の個性に応じた支援体制の充実を図る。 ②個性を重んじるとともに、他者への共感力と協働的な行動を尊ぶ姿勢を育成する。	①生徒の多様性を尊重するため、教育相談の支援体制の理解を深め、個々の情報を共有化し課題解決に当たる。②部活動等を通して、自己の可能性に自ら挑戦する力や、自分自身を鍛える力を育む。	①SCに加え、今年度よりSSWが毎週来校するためケース会議での情報共有など有効活用し支援体制の充実を図る。 ②学業との両立を図りつつ、部活動の加入率90%以上を維持する。	①SC,SSWとの情報交換を密にし、支援に必要な生徒の指導に生かす、課題解決につながったか。 ②目標達成のための効率的な指導体制が確立できたか。部活動の加入率90%以上を維持できたか。	①SSWが毎週来校するため打合せの内容をすぐに回覧し、情報共有の時間的な差異が生じないように支援体制の充実を図った。 ②学業との両立を図ったが、部活動の加入率は86%となった。	①支援に必要な生徒の指導に対し、情報分析し効果的な課題解決につながったか。 ②より効率的な指導体制を確立し、部活動の加入率90%以上を目指す。	①風通しがよく、柔軟な発想を持っているからこそ、今後も新しいシステムを取り入れ、適切な声掛けをしていく中で人づくりを進めてほしい。 ②部活動と学業の両立に、情報技術を取り入れた最適な教育が必要と考えられる。	①生徒の多様性を尊重するため、教育相談の支援体制の理解を深め、個々の情報。 ②部活動と学業の両立は図れたが、部活動の加入率は90%未満となった。	①支援に必要な生徒の情報分析をし、効果的な課題解決につながっていく。 ②部活動の加入率90%以上を目指し、生徒が継続して部活動に取り組める環境を整える。
3 進路指導・支援	・生徒が自らの資質・能力の向上を自覚できる進路指導を実践し、生徒の「挑戦」を支援する。	・高い目標を持って生徒が「挑戦」し、希望の進路を実現できるよう組織的取組の推進を図る。	・生徒の希望をもとに目標指標を定め、Classiの効果的な活用、外部模試、進路講演会、保護者向けの情報発信などさまざまな刺激を与え、生徒が高い目標に挑戦できるよう組織的に取り組む。	・Classi活用研修会、模試結果分析会、進路講演会に教員、保護者がどれだけ参加し、情報共有し、指導に活かすことができたか。 模試等の結果の推移を分析し、学力が向上しているか。	・分析会には50%程度の教員が参加し、学年の傾向や指導のポイントなどの情報共有を行った。また、保護者はのべ100名以上が参加（昨年度のべ42名）した。 ・3年進路アンケートの結果では、校内進路行事に満足している生徒の割合は46%、満足していない生徒の割合は16%だった。	・目標実現に向けて1年次から学習習慣が定着するように組織的な取り組みを推進する。 ・生徒の意見をもとにより良い進路行事を実施することができるよう企画の見直しおよび充実を図る。	・大学合格実績について、今年度の数字は誇れるものだと感じている。 ・進路アンケートの結果で満足している生徒の割合が高く感じた。 ・鎌倉の風土をいかに教育課程に組み込み、結びつけながら学びを深めていくことができると良い。	3年進路アンケートの結果では受験に満足した生徒は77%であった。進学未定の生徒は27名と年々減少している。	80%の生徒が自らの進路活動に満足できるように、学力向上および情報提供に継続して取り組む。
4 地域等との協働	・地域に開かれ、地域に貢献する学校づくりを推進する	・地域へ学校の適切な情報発信を行い、地域に信頼される学校づくりを進める。	・本校の生徒や学校の様子がより伝わるように、学校説明会等の時期や実施内容を工夫し、本校の魅力が地域に伝わるよう組織的に取り組む。	・学校説明会等を通じて、本校の魅力が十分に発信できたか。アンケートによる満足度の割合が7割以上になったか。	学校説明会等のアンケートによる満足度の割合が、概ね7割以上になった。	第一志望の中学生を今後もさらに増やすために学校説明会の内容や開催時期を検討し、年間を通して学校の様子や魅力が地域に伝わるよう取り組む。	・全公立展について、中学校側でも参加の関心が高く、入場数を増やしてほしい。説明会や見学会を開催していただき助かっている。	地域や中学生とその保護者に、学校や生徒の様子が伝わるような学校見学会等の開催やホームページの更新ができた。	第一志望の中学生をさらに増やすため、学校説明会の実施形態等の検討やホームページの内容のさらなる充実を図り、本校の魅力が伝わるように広報活動に努める。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	①信頼される学校づくりを進める。 ②生徒と触れ合う時間を多く作る。	①不祥事防止会議を核として、事故防止の徹底を図る。 ②働き改革を推進し、効率的な業務推進を図る。	①自分のこととして考えることができる事故防止研修を実施する。 ②職員の業務に対する負担感を減少させ、やりがいや達成感が感じられるよう、業務の効率化を図る。	①事故不祥事が起こらなかったか。 ②勤務時間管理システムを活用し、月に80時間以上の時間外勤務を行った職員の数。	①事故防止研修を計画的に実施することができた。 ②欠席連絡のIT化を実施した。月80時間以上勤務者は延べ16(昨年17)。	②コンプライアンスを確保し、生徒の人権に配慮する意識を涵養する必要がある。 ②長時間労働の要因を特定し対策する。	①不祥事防止会議を活用し、事故がなかったことは評価できる。 ②17時以降に留守番電話サービスを取り入れたことは評価できる。	①不祥事防止研修は計画通りに実施できたが、生徒の人権に配慮する意識の向上が課題である。 ②業務の効率化が進んだが、長時間勤務の実態があることが課題である。	①生徒の人権についての研修を充実させる。 ②衛生委員会を中心に長時間労働の対策を進める。